

宣言書読み、「意思表示に法的担保を」

～参議院予算委員会で尊厳死質疑～



2月20日の参院予算委員会の質問者席に「尊厳死の宣言書」の大きなパネルが掲げられた。梅村聰委員（民主・大阪選挙区）が「尊厳死について考えたい」と終末期医療問題を取り上げ、「宣言書」を紹介して「意思表示に何らかの法的担保は必要」と質した=写真。

質疑の最後に感想を求められた安倍首相は「人間が本来持つ尊厳を持って人生を終えたいことが実現する仕組みを考えたい」と答弁した。参院予算委員会の模様はNHKテレビの国会中継で全国放送された。（2頁につづく）

協会の会員は12万5138人です（3月10日現在）

主な内容

- 参院予算委員会質疑から……………2頁
- ご遺族アンケート報告……………4頁
- 「新・私が決める尊厳死」出版……………9頁
- 海外事情……………10頁
- 気になるニュース……………12頁
- 支部のページ……………14~31頁

関西 支部

支部長
長尾 和宏

住所 〒532-0003 大阪市淀川区宮原4-1-46 新大阪北ビル702号
TEL 06-4866-6365 メール kansai@songenshi-kyokai.com
FAX 06-4866-6375 ホームページ <http://www.songen-ks.jp>

大阪講演会

講師 長尾 和宏 日本尊厳死協会副理事長 関西支部長
会場 大阪コロナホテル 大阪市淀川区西淡路1-3-21
(JR新大阪駅東口北側より徒歩200m5分 河合塾横)

第2回

日時 2013年5月12日(日) 14時~16時

演題 「在宅看取りの実際」

最期を自宅で迎えたい方が85%。しかし、現実は?

こうすればできる。700人を看取った町医者が本音を語ります。

入場 無料、事前予約制 定員 240人

申込先 関西支部事務局 Tel 06-4866-6365 fax 06-4866-6375

◎非会員の方もお誘い合わせてお越し下さい。

第1回

日時 2012年12月8日(土) 14時~16時

演題 「平穏死の10の条件」

参加者 130人

参加者の感想

「とても良い話で来て良かった」「たくさん勉強になりました」「何回も参加したい」「素晴らしい」「感激しました」等



2012年和歌山・支部大会 講演(要旨)

「健やかに生き、 安らかに逝くために」 (前号から続く)

久坂部 羊(作家、医師)

東大病院の緩和ケア診療部で、がん患者と医師に興味深いアンケートが行われました。「望ましい最期を迎えるため」にという質問に、患者の8割が「病気と最後まで闘う」と答えたのに対し、医師は2割しか「最後まで闘う」と答えなかったのです。この差はどこから来るのか。患者は「治療=病気を治すこと」と思っているが、医師は「治療=やりすぎると大変なことになる」ことを知っているということでしょう。その事実はしっかりと世間に伝える必要があります。でないと、いつまでも治療で貴重な時間を無駄にする人がなくなりません。

しかし、医療者からはなかなか医療の限界を認める

ような情報は出てきません。それは医療者の自己否定につながるからです。医師は子どものころから勉強ばかりして、いい成績を取れば褒められるような育ち方をしているので、自分の非を認めるのが苦手なのです。

中には率直な医師もいて、「もう何も治療しないほうがいいです」と説明する場合もありますが、今度は患者さんのほうがそれを受け入れてくれません。「先生は私に死ねと言うのですか」などと感情的に反発する人もいて困ります。

さらにはマスメディアによって喧伝(けん伝)される医療の進歩や明るい見通しが、世間の目を惑わせます。再生医療、遺伝子治療、がんの分子標的薬など、夢のような新療法が華々しく紹介されると、がんも認知症もすぐ克服できるかのように思ってしまう。記事をよくよむと、さまざまな不確定要素があり、実現はまだまだむずかしいというようなことが書いてありますが、それは最後の付け足し程度で、多くの読者には伝わりません。

明るい話題は読者のウケがいいので、よい話ばかりが増幅されるのです。

製薬会社のCMも要注意です。『認知症の新しい治療がはじまりました』などと、新聞の全面広告にでかでかと出る。読んだ人は、新しい薬ができるのかと思ってしまう。『ずっと自分らしく』とも書いてある。読者はそうなるのかなと思ってしまう。しかし、そんなことはあり得ないし、広告にもうは書いていない。しかし、何となく安心感が得られるので、多くの人が信じ込み油断してしまいます。そんな夢物語にまけているかぎり、厳しい現実に打ち克つことはできません。ではどうするか。

私は在宅医療で患者さんと打ち解けてくると、よく「年いって何かいいことがありますか」と聞きます。たいていの人は「いいことなんか何もない」と答えます。しかし、あるとき私は、父にこんなことを言わされました。

「時間というものは、有効に使おうと思えば思うほど、足りなくなる」

私が30代のころ、少しでも時間を有効に使おうとあたふたしていたときに言われた言葉です。さらに、「時間は無駄にしてもいいと思った瞬間、無限になる」とも言われました。それで試しに、ある一日をまったく無駄にしてみようと思い、何もしないようにしてみると、その一日の長かったこと。

こういう発想は老人ならではの達観でしょう。老いればそういう知恵が得られると思えば、老いる楽しみも増えます。

かつて現代美術家の赤瀬川源平氏が、『老人力』というベストセラー本を書きました。それは老いてもの忘れが激しくなったとき、嘆くのではなく、「忘却力がついた」と評価するのです。老いて身体が素早く動かなくなても、「ゆっくり力がついた」と考えれば、悩む必要はありません。若者は素早く動ける代わりに無駄も多く、欲望や執着に囚われてあくせくしています。老人は「ゆっくり力」を發揮して、悠然と暮らせばいいのです。

老いればいろいろな機能が衰え、身体の不具合も出るのが当たり前です。それを何とかしたいとあがくから苦しみが増します。寿命が来れば最期を迎えるのが当然ですし、それは70代であれ、80代であれ、さほどの差はありません。多少の苦痛、不便は致し方ないも

のと受け入れ、容認することが、煩いを最小限に抑える妙法だと思います。

(終)

サロンの輪

「最期の1%が幸せならば…」

支部理事 西口 英雄

「人生の99%が不幸だったとしても、最期の1%が幸せならば、その人の人生は幸せなものになる。」

これはインドで貧しい人々や病める人々を生涯にわたって愛し、助け続けた修道女マザー・テレサ(1910~1997年)の言葉である。1979年にノーベル平和賞を受賞、日本の各地を3回にわたって訪問している。

—この言葉を尊厳死化してみると—

「人生の99%が幸せだったとしても、最期の1%が不幸なら、その人の人生は不幸なものになる」と言い替えできる。

支部ニュース

1 2013年度支部大会(予告・詳細は次号で)

①日時 2013年10月9日(水)14時~16時

②場所 大阪・中之島・大阪市中央公会堂

③講師 中村 仁一氏(医師)

④演題 「大往生したけりや 医療とかかわるな」

同名の著書(幻冬舎)はベストセラー

⑤入場 無料

2 支部役員人事(2013年1月1日)

①新任 浦嶋 健晃(奈良・会社員)

中川 真里(和歌山・医師)

港谷 泰之(兵庫・会社員)

②退任 木下美季男(滋賀・2012年9月)

渡邊 正子(奈良・2012年12月)

3 関西支部サポート募集

①業務内容 支部各種行事のサポート等

②定員 10人以内

③応募方法 ご希望の方は簡単な経歴書を事務所まで郵送下さい。支部理事会議で決定させて頂きます。

その他、詳しくは事務局までお問い合わせ下さい。